

動労第35回全国大会

「本部」革マルと密通した

裏切り・反動分子を許すな!

組織体制をさらに打ち固め、 動労大改革の道をバク進めよう!

動労熊本大会は、かつてない惨たんたる結果をもって終了した。①来賓あいさつの中で、総評植枝議長・全交運吉岡議長が「千葉問題」をとり上げ痛烈な動労「本部」批判。②一二七〇名による千葉問題について全面修正動議の提出。③国鉄再建Ⅱ三五万人体制攻撃に屈服する安定輸送宣言Ⅱ反合闘争放棄とこれに対する戦闘的代議員の決起。④良心的中執の抗議の総退陣と四名の欠員のまま発足せざるを得なかった「片肺欠陥」新執行部。こうした惨たんたる結果に終った全国大会にこともあろうに千葉から銚子・佐倉・津田沼・新小岩より七名が「特別代議員」と称して、大会代議員席にすわっていたという事実が判明した。

裏切り・密通分子を狩り出して
の「千葉再建」の虚構づくり

すでに報告されているように「全国大会前に千葉再建」なる「本部」方針がものごとくに完全に破産した結果、「千葉問題の全国大会方針案」は、事前の職場討議にすら下ろすことが出来ないほど惨たんたるものにおわった。

こうした状況の中で、彼ら革マル反動集団は、「特別代議員(?)」の狩り出しを国鉄当局の手もかりて強行し、七名の裏切り、密通分子を狩り出した。

彼らは、このようなうすぎたない策動をもって多くの代議員・傍聴者・全国の戦闘的組合員の批判をそらし、あたかも「千葉再建」が順調に進んでいるかのようにとりつくり、全国大会をなんとか乗り切り、大会後も引き続き千葉破壊策動を続行させる口実にしようとしたのである。

金と酒とあそびで「まず(右翼的)人間関係づくり」―「千葉再建」路線なるものの反動の実態―

周知のように、全力投入した「千葉再建オルグ」の完全に破産してしまつた彼らは、「成果主義的」におちいつてはいけない」とか「まず人間関係づくりが先決だ」などと千葉破壊の方針を御都合主義的にすりかえざるを得なかった。これを全国大会方針書に恥しくもなく、次のように述べている。この「人間関係づくり」は現在、「一緒に魚釣りやハイキング、旅行に行ったり、家族ぐるみにつき合ひとして、つくり出され...」と。

すなわち、彼ら革マル反動集団は、真正面からの千葉破壊策動が完全に失敗した結果、「金と酒とあそび」をもって、最も右翼的部分にとり入り、切り崩しと破壊策動のつかかりにせんとしている実態を自ら暴露してしまつていたのである。

裏切り・密通分子を断じて許すな!
徹底的に追及し一掃しよう!

「本部」革マル反動集団と密通し、動労千葉一四〇〇組合員を裏切つた七名の反動分子どもを、われわれは絶対に許すことはできない!なぜならば、彼ら裏切り・密通分子は、動労千葉破壊をめざす、「本部」革マル反動集団の手引き者であり、かつ、私利私欲のみを追求する右翼分子であり、「金・酒・あそび・出世」のためには、いつでも仲間を裏切るという全く度しがたい卑劣反動分子だからである。

このことは、現にそれぞれの支部で永年彼らの行動を見てきた組合員ならば誰でも知っていることである。

私利私欲のために職場の仲間を裏切るような卑劣分子、職場でたえず右翼的に足を引っ張り、不満だけは人一倍述べたてても決して自分は汗を流そうとはしない反動分子、うわべだけつくり出してはいるが、裏で東京地本革マル某としょっちゅう会つてうちあわせしながら4・17津田沼襲撃や4・21新小岩支部結成大会破壊襲撃を策動してきたスパイ分子、...これらの裏切り・密通分子に対しては、それにふさわしい職場での大衆的追及行動を展開しなければならぬ。

大局的に言えば、これらなげなしの七名は危機に立つ「本部」革マル指導路線上の破綻を陰へいするため展望もなく裸で「狩り出され」「まつり上げられた」あわれな「全国大会用の使い棄て」要員以上の何ものでもないといえ、その犯した罪は悪質極まりないものである。

去る八月一三日開催された全支部代表者会議は、慎重審議の上でこれら卑劣・破壊分子の完全一掃を満場一致確認決定した。
全職場から怒りをこめた大衆的糾弾闘争をまき起し、卑劣・破壊分子を一掃しよう!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!